

タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する： ビデオクリップ実験から得られた移動表現の一分析

高橋 清子

1. はじめに

移動動詞はその多くが固有の語彙相 *lexical aspects, actionsart* (Vendler 1967) を持つ。タイ語の移動動詞を例にとれば、*wīŋ* ‘run’ は活動相 *activity* を表し、*tòk* ‘fall off’ は到達相 *achievement* を表し、*khâam* ‘cross’ は達成相 *accomplishment* を表す (Takahashi, to appear a)。

- (1) *kháw* *wīŋ* *maaraathɔɔn* (*sǎɔŋ chûa moŋ*)
PRON run marathon (two.hours)

彼は (2 時間) マラソン競争を走った

- (2) *cɛenkan* *tòk* (**sǎɔŋ wīnaathii*)
vese fall.off (two.seconds)

花瓶は (*2 秒間) 落ちた

- (3) *fǒn* *tòk* (*sǎɔŋ chûa moŋ*)
rain fall.off (two.hours)

雨が (2 時間) 降った (落ち続けた)

時間幅のある活動相の動きを表す *wīŋ* ‘run’ は「2 時間」などの時間幅を表す副詞と共起し得るが (e.g. (1))、時間幅のない到達相の動きを表す *tòk* ‘fall off’ は時間幅を表す副詞と共起し得ない (e.g. (2))。ただし「雨粒が続けて落ちる (雨が降

る)」などの反復相に解釈される場合は、時間幅を表す副詞と共起し得る (e.g. (3))。

「マラソン競技を走る」などの活動相の動きと「川を渡る」などの達成相の動きは、時間幅があるという点において共通性がある。しかし前者には終結点がないのに対し、後者には終結点がある。終結点のある達成相の動きを表す *khâam* ‘cross’ が完了相標識と共起すると「渡る動きが完結する」と解釈されるが (e.g. (4))、終結点のない活動相の動きを表す *wîy* ‘run’ が完了相標識と共起すると、文脈によって「走る動きが起動する」と解釈されたり「走る動きが完結する」と解釈されたりする (e.g. (5))。

- (4) *phûan* *khâam* *mêε nám* *léew*
 friend cross river PFV
 友人は川を渡った (渡り終えた)

- (5) *phûan* *wîy* *maaraathɔɔn* *léew*
 friend run marathon PFV
 友人はマラソン競争を走った (走り始めた、走り終えた)

タイ語の直示動詞 (話者が定めた任意の地点を基準として、そこから離れるのかあるいは近づくのかという移動の直示性を表す動詞) *pay* ‘go’, *maa* ‘come’ は、他の一般的な移動動詞と異なり、語彙相が中立的である。つまり、それら2つの直示動詞の語彙相は本来的に未確定であり、文脈によって、時間幅のある継続相 *durative* (活動相、達成相) に解釈されたり、時間幅のない瞬間相 *punctual* (到達相) に解釈されたりする (e.g. (6), (7))。

- (6) *phûan* *pay* *taam* *thaay* *nii* *sǎɔŋ chûa moon*
 friend go along road this two.hours
 友人は2時間この道に沿って行った

タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する：
ビデオクリップ実験から得られた移動表現の分析

- (7) *phûan* pay *mûa kî nî*
friend go a.short.while.ago

友人はつい先ほど行った

tòk ‘fall off’, *khâam* ‘cross’, *pay* ‘go’, *maa* ‘come’ など、タイ語には移動の経路を表す動詞（経路動詞）が数多くある。その中で、*pay* ‘go’, *maa* ‘come’, *khâw* ‘enter’, *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, *khùn* ‘ascend’, *loj* ‘descend’ の6つの経路動詞は、特に用途の広い動詞 *versatile verbs* である (cf. Thepkanjana 1986, Kessakul 2005, *inter alia*)。言い換えれば、それら6つの経路動詞は典型的な多機能語である。単一の移動事象を表す単節の中で、それらが本来の経路動詞として機能するときには、次のような共起制限がある。(a) *pay* ‘go’ と *maa* ‘come’ はそのどちらか1つしか生起できない。(b) *khâw* ‘enter’, *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, *khùn* ‘ascend’, *loj* ‘descend’ はそれらのどれか1つしか生起できない。(ただし、行ったり来たりを表す *pay maa* ‘go, come’、出たり入ったりを表す *khâw ɔ̀ɔ̀k* ‘enter, exit’、上ったり下ったりを表す *khùn loj* ‘ascend, descend’ という表現は可能である。) 移動の経路という実質的な意味を表すとはいえ、その経路の抽象度は他の経路動詞 (*tòk* ‘fall off’ や *khâam* ‘cross’ など) に比べて高く、またお互いに共起制限を持つということからしても、それら6つの経路動詞は対立的な機能的意味を表す機能語群（文法語）に近いと言える。

用途の広い6つの経路動詞は、各々、完全に文法化された相標識やモダリティ標識としての機能を持つ。例えば、*pay* ‘go’, *maa* ‘come’ は、継続相 *continuous* や起動相 *inceptive* を表す相標識として機能する他、*maa* ‘come’ は完了相 *perfect* を表すことができ、*pay* ‘go’ は「量や質が過剰あるいは不適切」という話者の評価を表すことができる (Takahashi, to appear b)。用途の広い6つの経路動詞の特徴は、経路動詞（内容語）としての使用頻度と相/モダリティ標識（機能語）としての使用頻度の双方が顕著に高いことである。

筆者は、到着動詞 *arrival verbs* (Takahashi 2009) という移動動詞の種類に注目

して以降、*khâw* ‘enter’ (用途の広い経路動詞の1つ)は達成相の動きと到達相の動きの両方を表し得る一即ち、直示動詞の前に生起して(時間幅のある継続的な入る動きを表す)達成経路動詞 *accomplishment path verb* (e.g. (8))として機能したり、直示動詞の後ろに生起して(時間幅のない瞬間的な入る動きを表す)到達終結経路動詞 *achievement terminative path verb* (到着動詞 *arrival verbs* の1種) (e.g. (9))として機能したりする一と考えている。

- | | | | | | | |
|-----|--------------|-------------|--------------|------------|------------|------------|
| (8) | <i>phûan</i> | <i>dəən</i> | <i>khâw</i> | <i>pay</i> | <i>tây</i> | <i>rôm</i> |
| | friend | walk | <u>enter</u> | go | below | parasol |

友人は日傘の下に歩いて入って行った

- | | | | | | | |
|-----|--------------|-------------|------------|-------------|------------|------------|
| (9) | <i>phûan</i> | <i>dəən</i> | <i>pay</i> | <i>khâw</i> | <i>tây</i> | <i>rôm</i> |
| | PRON | walk | go | enter | below | parasol |

友人は歩いて行って日傘の下に入った

一方、*ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, *loj* ‘descend’, *khûn* ‘ascend’ についてはこれまで深く考えてこなかった。しかし昨年から今年にかけて、様々な移動場面を撮影したビデオクリップを使った発話実験¹を実施し、録音した全ての発話を書き起こしてコーディングし、表現パターンを分析したところ、*ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, *loj* ‘descend’, *khûn* ‘ascend’ を含む興味深い表現パターン (e.g. (10)–(12)) が相当数見つけた。結果として、それらの経路動詞の語彙相について再考する機会を得た。

¹ 平成27年度–平成30年度科学研究費助成事業(基盤研究(B))「移動表現による言語類型:実験的統一課題による通言語的研究」(研究代表者:松本曜、神戸大学人文学研究科教授、平成29年10月から国立国語研究所言語対照系教授;研究課題番号:15H03206)において筆者が研究分担者として担当した実験。被験者はタイ語母語話者43名。各被験者にコンピュータ画面で合計78の短い移動場面のビデオクリップ映像を順次見てもらい、各映像について、見終わった後すぐにその内容を簡潔に表現してもらった。移動場面には、例えば、テーブルの近くから離れ去る人、階段を駆け上がる人、建物に駆け込む人、川に沿って進む人、道を渡る人、ポストの前を通り過ぎる人、休憩所の中を通り過ぎる人、丘を越える人、橋の下を通り抜ける人、木の周りを回る人、木の間を通り抜ける人、傘の下に入って止まる人、箱の中から椅子の上に跳び乗る猫、池に転がり落ちるボール、サッカーゴールを出てベンチの下を潜り抜けてケージに入る犬、などが含まれる。

タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する：
ビデオクリップ実験から得られた移動表現の分析

- (10) *phúu yǐŋ* *wǐŋ* *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* *càak* *róm* *pay*
 woman run exit leave parasol go
 女性は日傘から走り出た

- (11) *bɔ̀ɔ̀n lǎy* *lɔ̀ŋ* *càak* *sanǎam yáa* *pay* *yaŋ*
 ball glide descend leave yard go to
sàʔ nám
 pond
 ボールは草地から池に滑り落ちた

- (12) *mɛəw kradòot* *khún* *càak* *klə̀ŋ* *pay* *bon* *káwʔi*
 cat jump ascend leave box go on chair
 猫は箱から椅子の上に跳び乗った

同様に経路動詞 *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, *lɔ̀ŋ* ‘descend’, *khún* ‘ascend’ が使われた、より生起頻度の高い表現パターンを(13)–(15)に挙げる。*ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, *lɔ̀ŋ* ‘descend’, *khún* ‘ascend’ の生起位置が(10)–(12)の表現パターンと(13)–(15)の表現パターンで異なる点に注意して欲しい。(10)–(12)では様態動詞 *wǐŋ* ‘run’, *lǎy* ‘glide’, *kradòot* ‘jump’ の直後に生起し、(13)–(15)では直示動詞 *pay* ‘go’ の直前に生起している (第3節で詳しく説明する)。

- (13) *phúu yǐŋ* *wǐŋ* *càak* *róm* *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* *pay*
 woman run leave parasol exit go
 女性は日傘から走り出た

- (14) *bɔ̀ɔ̀n lǎy* *càak* *sanǎam yáa* *lɔ̀ŋ* *pay* *yaŋ*
 ball glide leave yard descend go to
sàʔ nám
 pond
 ボールは草地から池に滑り落ちた

(15)	<i>meew</i>	<i>kradòot</i>	<i>càak</i>	<i>klòŋ</i>	<i>khùun</i>	<i>pay</i>	<i>bon</i>	<i>kâwzîi</i>
	cat	jump	leave	box	<u>ascend</u>	go	on	chair
	猫は箱から椅子の上に跳び乗った							

ビデオクリップ映像を使った発話実験によって母語話者が実際に発話した多様な移動表現を多数収集することができ、*pay* ‘go’, *maa* ‘come’, *khâw* ‘enter’ のみならず、*zòak* ‘exit’, *khùun* ‘ascend’, *loy* ‘descend’ も、時間幅のある継続相の動き (e.g. (6), (8), (13)–(15)) と時間幅のない瞬間相の動き (e.g. (7), (9), (10)–(12)) の両方を表し得る、ということに新たに気付いた。そこから考察を進め、それら6つの用途の広い経路動詞はその全てが中立的な語彙相を持つ—言い換えれば、本来的に語彙相が未確定で、文脈によって継続相 (達成経路動詞) に解釈されたり瞬間相 (到達経路動詞) に解釈されたりする—と見るのが妥当だ、という結論に至った。本稿の目的は、その考えの根拠を詳らかにすることである。

2. タイ語移動表現の体系

新たな分析に入る前に、本節では、基本的なタイ語移動表現についての従来の分析²を概観する。

タイ語話者が移動事象を表現するとき、*pay* ‘go’ などのように動詞を1つだけ使うこともあるが、*wiŋ khâw pay* ‘run, enter, go’ などのように複数の動詞から成る動詞連続体を使うことが多い。タイ語の移動事象を表す動詞は統語的及び意味的基準によって以下の6種類に大別することができる。

[1]使役動詞 *cause verbs* : 移動の原因を表す (e.g. *dan* ‘push’)

[2]様態動詞 *manner verbs* : 移動の様態を表す (e.g. *wiŋ* ‘run’)

² 詳細については、高橋 2017 や Takahashi, to appear a を参照されたい。

タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する：
ビデオクリップ実験から得られた移動表現の分析

[3]到達経路動詞 *achievement path verbs* : 移動の起点や終点に関係する方向性を表す (e.g. *càak* ‘leave’)

[4]達成経路動詞 *accomplishment path verbs* : 移動の通過点や通過経路に関係する方向性を表す (e.g. *khâam* ‘cross’)

[5]直示動詞 *deictic verbs* : 移動の直示性を表す (e.g. *maa* ‘come’)

[6]到着動詞 *arrival verbs* : 移動の結果の出来事を表す (e.g. *chon* ‘bump’)

同種あるいは異種の動詞を複数使って複雑だがまとまりのある単一の事象—それ固有の始点/終点と持続時間を持ち、時間軸上にそれ固有の位置を占める事象 (‘macro-event’ Bohnemeyers et al. 2007) —を表現しようとするとき、それらの動詞の並び方は[1]–[6]の順でなければならない。動詞連続体の中のそれぞれの動詞は項名詞句/補語名詞句/前置詞句を伴うこともある。ただし[2]様態動詞は、主語は取り得るが目的語は取り得ない。

単一移動事象を表す動詞連続体の具体例を(16), (17)に挙げる。(16)では、[2]様態動詞 *wîj* ‘run’, [4]達成経路動詞 *khûn* ‘ascend’, [5]直示動詞 *maa* ‘come’ が共起している。*khûn* ‘ascend’ は通過経路を表す補語名詞句 *banday* ‘stairs’ を従えている。完了相を標示する *léew* ‘PFV’ が最後に置かれている。(17)では、6種類全ての動詞が共起している。[1]使役動詞 *dan* ‘push’ は移動物を表す目的語名詞句 *rót* ‘car’ を伴い、[6]到着動詞 *còot* ‘stop’ は到着点を表す前置詞句 *nay zùu* ‘in garage’ を伴っている。時間軸上の位置(時間点)を表す副詞 *mûa kîi ní* ‘a short while ago’ が最初に置かれている。

(16) <i>meew wîj</i>	<i>khûn</i>	<i>banday</i>	<i>maa</i>	<i>léew</i>
cat run	ascend	stairs	come	PFV
	[2]	[4]	[5]	
猫が走って階段を上って来た				

- (17) *mûa kîi ní* *cháan* *dan* *rót* *lǎy* *thǎy* *klàp*
a.short.while.ago elephant push car glide recede return
[1] [2] [3] [4]
pay còot *nay* *zùu*
go stop in garage
[5] [6]

つい先ほど、象が車を押して（車が）滑走して後退して戻って行って車庫の中で止まった

(16)の最後に置かれている完了相標識も、(17)の最初に置かれている時間点を表す副詞も、その意味の作用域が動詞連続体の全体に及んでいることから、これらの動詞連続体は単節であることが分かる。(16), (17)のような単節の動詞連続体が表す単一移動事象の体系（統語構造及び意味構造）は、以下の(a)と(b)を分析要素として、表1のように定式化できる（Takahashi, to appear a）。

- (a) 移動事象の力学的構造 force dynamics (Talmy 2000: 409–549)、即ち、移動事象を構成する3つの副事象の関係性：

I 使役事象 cause event [移動の原因 causation] →

II 転位事象 translocation event [移動の過程 process] →

III 到着事象 arrival event [転位後の変化 change (+状態 state)]

- (b) 使役事象、転位事象、到着事象を表す動詞の語彙相の種類：

活動相 activity

到達相 achievement

達成相 accomplishment

前節で述べたように、これまで筆者は、[5]直示動詞の *pay* ‘go’, *maa* ‘come’ だけが中立的な語彙相を持ち、*khâw* ‘enter’, *zòok* ‘exit’, *khûn* ‘ascend’, *loŋ* ‘descend’ は基本的には達成相の継続的な動きを表す[4]達成経路動詞である（ただし *khâw* ‘enter’ は到達相の瞬間的な動きを表す[6]到着動詞としても機能する）と考えていた。しかし移動事象を描写する多数の発話データを分析した結果、*pay* ‘go’, *maa* ‘come’ だけでなく *khâw* ‘enter’, *zòok* ‘exit’, *khûn* ‘ascend’, *loŋ* ‘descend’ も含めた6つの用途の広い経路動詞は全て中立的な語彙相を持つと捉えるほうが自然であり合理的であると考えられるようになった。その考えの発端となった発話データを次節で提示する。

3. ビデオクリップ実験から得られた移動表現の分析

ビデオクリップ実験から得られた発話の音声データを書き起こしていたとき、同一経路動詞が重複して使われている移動表現があることに気が付いた。(18), (19)がそれである。(18)では2つの *zòok* ‘exit’ が使われ、(19)では2つの *loŋ* ‘descend’ が使われている。

(18) <i>phûu chaay</i>	<i>wiŋ</i>	<u><i>zòok</i></u>	<i>càak</i>	<i>tùk</i>	<u><i>zòok</i></u>	<i>pay</i>
man	run	<u>exit</u>	leave	building	<u>exit</u>	go
	[2]	[?]	[3]		[4]	[5]

男性は建物から走って出て行った

(19) <i>phûu chaay</i>	<i>kradòot</i>	<u><i>loŋ</i></u>	<i>càak</i>	<i>tó?</i>	<u><i>loŋ</i></u>	<i>máa nâŋ</i>
man	jump	<u>descend</u>	leave	table	<u>descend</u>	bench
	[2]	[?]	[3]		[4]	

男性はテーブルから跳んでベンチに下りた

初めは被験者の言い間違いではないかと思った。通常 *zòok* ‘exit’ も *loŋ* ‘descend’

も単節には1つしか生起せず、このように2つ一緒に使われている例に遭遇したことがなかったからである。あるいは、移動の情景を詳しく描写するために敢えて被験者は、(18)では「建物から走って出る」と「出て行く」の2節に分けて発話し、(19)では「テーブルから跳び下りる」と「ベンチに下りる」の2節に分けて発話しているのかしらとも思ったが、被験者の発話の速さやテンポなどから考えて、そうではないと判断できた。(18), (19)はタイ語の文法規則に照らして誤った表現とまでは言えないが、不自然に冗長であり、規範的ではない。しかし複数の被験者がこのような発話をしたということは、たとうっかり口を滑らせたのだとしても、同じように口を滑らせてしまう何らかの理由があるはずである。

(18)の2つ目の *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ と(19)の2つ目の *loŋ* ‘descend’ の生起位置は、(13)=(20), (14)=(21)に見られる[4]達成経路動詞としての生起位置に合致している。つまり、それらは「継続的な出る/下る動き」を表すと考えられる。

(20) <i>phúu yǐŋ</i>	<i>wiŋ</i>	<i>càak</i>	<i>róm</i>	<u><i>ɔ̀ɔ̀k</i></u>	<i>pay</i>
woman	run	leave	parasol	<u>exit</u>	go
	[2]	[3]		[4]	

女性は日傘から走り出た

(21) <i>bɔ̀ɔ̀n lǎy</i>	<i>càak</i>	<i>sanǎam yáa</i>	<u><i>loŋ</i></u>	<i>pay</i>	<i>yaŋ</i>
ball glide	leave	yard	<u>descend</u>	go	to
	[2]	[3]	[4]	[5]	

sàʔ nám

pond

ボールは草地から池に滑り落ちた

しかし(18)の1つ目の *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ と(19)の1つ目の *loŋ* ‘descend’ の生起位置([?])は、達成経路動詞の生起位置から逸脱しており、それらは達成経路動詞ではない。

それらの生起位置は、(10)=(22)の *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, (11)=(23)の *loŋ* ‘descend’, (12)=(24)の *khùn* ‘ascend’ の生起位置と同じである。

(22) <i>phúu yĩŋ</i>	<i>wĩŋ</i>	<u><i>ɔ̀ɔ̀k</i></u>	<i>càak</i>	<i>róm</i>	<i>pay</i>
woman	run	<u>exit</u>	leave	parasol	go
	[2]	[?]	[3]		[5]

女性は日傘から走り出た

(23) <i>bɔ̀ɔ̀n lǎy</i>	<u><i>loŋ</i></u>	<i>càak</i>	<i>sanǎam yáa</i>	<i>pay</i>	<i>yay</i>
ball glide	<u>descend</u>	leave	yard	go	to
	[2]	[?]	[3]	[5]	

sàʔ nám

pond

ボールは草地から池に滑り落ちた

(24) <i>mɛɛw kradòot</i>	<u><i>khùn</i></u>	<i>càak</i>	<i>kləŋ</i>	<i>pay</i>	<i>bon</i>	<i>káwzũ</i>
cat jump	<u>ascend</u>	leave	box	go	on	chair
	[2]	[?]	[3]	[5]		

猫は箱から椅子の上に跳び乗った

[2]様態動詞 *wĩŋ* ‘run’, *lǎy* ‘glide’, *kradòot* ‘jump’ と [3]到達経路動詞 *càak* ‘leave’ の間に生起している(22)の *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, (23)の *loŋ* ‘descend’, (24)の *khùn* ‘ascend’ は果たしてどの種類の移動動詞に分類されるべきであろうか。筆者の考えでは、それらは後続の *càak* ‘leave’ と同じ [3]到達経路動詞（起動経路動詞）である。*càak* ‘leave’ が「瞬間的な離れ去る動き」を表すのと同様、(22)の *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ は「瞬間的な出る動き」を表し、(23)の *loŋ* ‘descend’ は「瞬間的な下る動き」を表し、(24)の *khùn* ‘ascend’ は「瞬間的な上る動き」を表している、と考えられる。(18), (19), (22)–(24)には2つの [3]到達経路動詞—*ɔ̀ɔ̀k* と *càak*, *loŋ* と *càak*, *khùn* と *càak*—が

タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する：
ビデオクリップ実験から得られた移動表現の分析

使われていることになるが、それは統語的にも意味的にも何らおかしいことではない。同種の動詞が単一の移動事象を表す単節の中に複数使われることはよくあることである。それぞれ異なる視点から移動の経路を描写していると考えればよい。(25)を見て欲しい。(25)は単節であるが(その証拠として、時間点を表す副詞や相/モダリティ標識によって修飾される時、その修飾の作用域は構文全体に及ぶ)、その中に2つの[3]到達経路動詞(起動経路動詞 *rúaj* ‘drop off’ と前終結経路動詞 *lòn* ‘drop onto’³)が含まれている。

(25) <i>lom</i>	<i>phát</i>	<i>bay máy</i>	<i>pliw</i>	<i>rúaj</i>	<i>lòn</i>	<i>loj</i>	<i>maa</i>
wind	blow	leaf	flutter	<u>drop.off</u>	<u>drop.onto</u>	descend	come
	[1]		[2]	[3]	[3]	[4]	[5]
風が葉に吹き付け(葉が)舞い落ちた							

(26)–(28)はその他の種類の動詞が重複している例である。(26)–(28)はいずれも単節だが(25)と同様、時間点を表す副詞や相/モダリティ標識によって修飾される時、その修飾の作用域は構文全体に及ぶ)、(26)には[1]使役動詞が2つ(*ɔaw* ‘grasp, take’, *sáy* ‘put in’) 含まれ、(27)には[2]様態動詞が2つ(*dəən* ‘walk’, *khayòok khayèek* ‘hobble’) 含まれ、(28)には[4]達成経路動詞が2つ(*lòt* ‘pass through’, *khâw* ‘enter’) 含まれている。

³ 起動経路動詞と前終結経路動詞は到達経路動詞の下位範疇である(cf. 表1)。前者は起点からの方向性を表し、後者は終点までの方向性を表す。起動経路動詞 *rúaj* ‘drop off’ は「移動物が何かから落ちる」ことを表し、前終結経路動詞 *lòn* ‘drop onto’ は「移動物が何かに落ちる」ことを表す。

- (26) *phów zaw nánsúuu sáv loŋ pay nay krapáw*
 father grasp book put.in descend go in bag
 [1] [1] [4] [5]

父は本を手に取り鞆の中に入れた

- (27) *mêe dæən khayòok khayèek klàp maa*
 mother walk hobble return come
 [2] [2] [4] [5]

母は歩いてびっこをひきひき帰って来た

- (28) *líuk bəən klìŋ lóot táy máa nây kháw*
 ball roll pass.through below bench enter
 [2] [4] [4]

pay nay koo

go in goal

[5]

ボールは転がってベンチの下を潜り抜けサッカーゴールの中に入った

càak ‘leave’, (22)の *zòok* ‘exit’, (23)の *loŋ* ‘descend’, (24)の *khùn* ‘ascend’ はいずれも[3]到達経路動詞の下位範疇の1つ、起動経路動詞（起点からの方向性を表す動詞）に属する。そしてそれらの起動経路動詞は、以下のように、さらなる2つの下位範疇(a), (b)に分類できる。起動経路動詞にこのような2つの下位範疇があるという事実に、筆者はこれまで気付けなかった。

(a) ある起点の位置から離れ去ることを表す「起点経路動詞」(e.g. *càak* ‘leave’)

(b) ある方向に動き始めることを表す「始動経路動詞」(e.g. (22)の *zòok* ‘exit’)

(18)=(29)には「瞬間的な出る動きを表す[3]始動経路動詞 *zòok*」と「継続的な

タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する：
ビデオクリップ実験から得られた移動表現の分析

出る動きを表す[4]達成経路動詞 *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* が混在し、(19)=(30)には「瞬間的な下る動きを表す[3]始動経路動詞 *loŋ*」と「継続的な下る動きを表す[4]達成経路動詞 *loŋ*」が混在している。そう考えるのが最も合理的である。

(29) <i>phúu chaay</i>	<i>wiŋ</i>	<u><i>ɔ̀ɔ̀ɔ̀k</i></u>	<i>càak</i>	<i>tùk</i>	<u><i>ɔ̀ɔ̀ɔ̀k</i></u>	<i>pay</i>
man	run	<u>exit</u>	leave	building	<u>exit</u>	go
		[2]	[3]	[3]	[4]	[5]

男性は建物から走って出て行った

(30) <i>phúu chaay</i>	<i>kradòot</i>	<u><i>loŋ</i></u>	<i>càak</i>	<i>tóʔ</i>	<u><i>loŋ</i></u>	<i>máa nâŋ</i>
man	jump	<u>descend</u>	leave	table	<u>descend</u>	bench
		[2]	[3]	[3]	[4]	

男性はテーブルから跳んでベンチに下りた

(29)あるいは(30)を発話した被験者はビデオクリップ映像の「建物から出る動き」あるいは「テーブルからベンチに飛び下りる動き」を見て、とっさに、「瞬間的な出る/下る動き（始動）」と「継続的な出る/下る動き（進展）」の両方を同じ経路動詞 *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ あるいは *loŋ* ‘descend’ で表現してしまったのであろう。(29), (30)のような表現が形成され得るということは、経路動詞 *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, *loŋ* ‘descend’ は語彙相が未確定で固定化されておらず継続相にも瞬間相にも自由に使えることの証と言えよう。擬人化した言い方をすれば、それらの経路動詞は自らの用途を指定せず「好きなように使ってもらって結構」と我々にその扱いを委ねているわけである。

特に *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ は、様態動詞の直後に生起して始動経路動詞として機能している例 (e.g. (22)) が発話データの中に多数見られた。先行研究 (Sakuma 2004: 46–48) では、動詞連続体の先頭に生起して「行為の開始」の意味を表す *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ について指摘がある (e.g. (31), (32))。 (31), (32)の *ɔ̀ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ の用法は、始動経路動詞

から文法化が進み、起動相標識の機能を獲得しつつある用法と見てよいであろう。

- (31) *klùm phúu sùuu khàaw* ɹòɹk *dəəŋ thaəŋ pay* *yaŋ*
 group journalist exit travel go to
cùt thūi *kə̀ət* *hèet*
 point REL occur accident
 記者らは事故現場に向かった

- (32) *nák wichaakaan* ɹòɹk *ronnarəŋ hây* *khwaam ríu*
 scholar exit campaign transfer knowledge
 学者らは知識伝達のキャンペーンに出た

動詞連続体の先頭に生起する *ɹòɹk* ‘exit’ (e.g. (31), (32)) は、動詞連続体の先頭に生起して移動者の目的意識を暗示する *pay* ‘go’, *maa* ‘come’ (e.g. (33)) に似ている。(33)の *pay* ‘go’, *maa* ‘come’ は、移動先である行為（後続動詞が表す行為）を行おうとして移動することを表す (Takahashi, to appear b)。

- (33) *phóɔ* { pay / maa } *khuy* *kàp* *mêe*
 father { go / come } chat with mother
 父は母に話をしに {行った / 来た}

直示動詞 *pay* ‘go’, *maa* ‘come’ は中立的な語彙相を持つ（継続相にも瞬間相にも解釈可能である）と先に説明したが、その説明は直示動詞が物理的な移動の意味を表す移動動詞（内容語）として機能する場合にのみ当てはまる。一方、「目的意識を持って移動する（移動者が移動先で何かをするために移動する）」という話者の捉え方や認識のあり方を暗示する(33)の *pay* ‘go’, *maa* ‘come’ は、機能語に限り

なく近い（普通の動詞のように否定辞 *mây* で否定されることがない）。機能語と同様、語彙相を特定することができない。実質的な出来事であれば、継続相か瞬間相かといった時間的様態は問題にならないからである。動詞連続体の先頭に生起する *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ (e.g. (31), (32)) も、語彙相が問題にされなくなったときには、完全な機能語に移行したと言える。

4. おわりに

khâw ‘enter’ が（継続的な入る動きを表す）達成経路動詞 (e.g. (8)) だけでなく（瞬間的な入る動きを表す）到着動詞 (e.g. (9)) としてもよく使用されるのは、普段、人や車などの移動物が移動の終結段階で部屋や建物などの区切られた空間に入る場面を我々がよく目にし、それを他者に伝えるために *khâw* ‘enter’ を使って表現することが多いからである。また、*ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ が（継続的な出る動きを表す）達成経路動詞 (e.g. (13)) だけでなく（瞬間的な出る動きを表す）始動経路動詞 (e.g. (10)) としてもよく使用されるのは、普段、移動物が移動の始動段階で区切られた空間から出る場面を我々がよく目にし、それを他者に伝えるために *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’ を使って表現することが多いからである。そのようなことは使用頻度や典型性（慣れ親しみ度）の問題であり、文法規則の問題ではない。したがって、語用論的に適切な条件（実際の言語使用における前提や文脈など）が整ってさえいれば、*khâw* ‘enter’ だけでなく *ɔ̀ɔ̀k* ‘exit’, *khún* ‘ascend’, *loy* ‘descend’ も到着動詞として機能し得るだろう。また、今回の実験の発話データの中には見られなかったが、*khâw* ‘enter’ を始動経路動詞として使うことも可能であろう。想像してみよう。もし川岸に停泊した船の船底を住处にすることが一般的になったとしたら、どうであろう。*loy* ‘descend’ が到着動詞として使われることが増えるのではないだろうか。もし我々の活動場所がある囲われた空間に限られ、その空間に入らなければ何事も始められない状況が恒常的になったとすれば、どうであろうか。*khâw* ‘enter’ が始動経路動詞として使われ始めるのではないだろうか。

6つの経路動詞 *pay* ‘go’, *maa* ‘come’, *khâw* ‘enter’, *zòok* ‘exit’, *khûn* ‘ascend’, *loy* ‘descend’ は、語彙相が未確定で固定されていないからこそ、用途が広く多機能である、ということにもっと早くに気付くべきだった。周到さが及ばなかった。これまででは、用途の広い6つの経路動詞の真の共通性を理解していなかったと言える。いや待てよ、もしや、という機転のきかせ方が鈍く、この見方はどうだろう、あの見方はどうだろう、という視座の転換が自由自在でない、ということであろう。タイ語文法全般の体系的記述を目指すのであれば、まずはものの見方や考え方を柔軟にし、発想力や想像力を鍛えるところから始めなければならない。自戒としたい。

参照文献

〈日本語〉

高橋清子. 2017. 「タイ語の移動表現」 松本曜 (編) 『移動表現の類型論』 第6章, 129–158. 東京: くろしお出版.

〈英語〉

Bohnenmeyers, Jürgen, Nicholas J. Enfield, James Essegbey, Iraide Ibarretxe-Antuñano, Sotaro Kita, and Friederike Lüpke. 2007. Principles of event segmentation in language: The case of motion events. *Language* 83(3), 495–532.

Kessakul, Ruetaiwan. 2005. *The Semantic Structure of Motion Expressions in Thai*. Ph.D. dissertation, Tokyo University.

Takahashi, Kiyoko. 2009. Arrival expressions in Thai. *Journal of the Southeast Asian Linguistics Society*, 2: 175–193.

Takahashi, Kiyoko. To appear a. Syntactic and semantic structures of Thai motion expressions.

Takahashi, Kiyoko. To appear b. Deictic motion constructions in Japanese and Thai.

タイ語の用途の広い経路動詞の語彙相を再考する：
ビデオクリップ実験から得られた移動表現の分析

Talmy, Leonard. 2000. *Toward a Cognitive Semantics, Vol.1: Concept Structuring Systems*. Cambridge, MA: MIT Press.

Thepkanjana, Kingkarn. 1986. *Serial Verb Constructions in Thai*. Ph.D. dissertation, University of Michigan.

Vendler, Zeno. 1967. *Linguistics in Philosophy*. Ithaca, NY: Cornell University Press.

〈タイ語〉

วงศ์ศรี, กาจบัณฑิต. 2004. *เครือข่ายความหมายของคำว่า ‘ออก’: การศึกษาแนวอรรถศาสตร์ปริชาน*.
วิทยานิพนธ์ปริญญาโทบัณฑิต บัณฑิตวิทยาลัย จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย.